

公共図書館における新型コロナワクチンに関する書籍の所蔵調査

片田 晴希

本研究では、日本の公共図書館において、ワクチン忌避に関わる書籍（いわゆる反ワクチン本）を含む、新型コロナワクチンに関する書籍について所蔵調査を行い、公共図書館の所蔵の公平性や、それらの書籍の所蔵に影響する要因を明らかにした。2020年1月以降に出版された、新型コロナワクチンに関する書籍111冊について、ワクチンに対しての立場に基づいて「ポジティブ書籍」「中立書籍」「ネガティブ書籍」に分類し、またネガティブ書籍を、COVID-19やワクチンにまつわる陰謀論的主張を含む「陰謀論書籍」と、それを含まない「消極的書籍」に分類し、カーリル図書館APIを用いて1,474自治体の図書館5,144館における所蔵調査を行った。それらの書籍の特徴を分析し、また重回帰分析により、対象資料の所蔵に影響する諸要因を明らかにした。陰謀論書籍は極めて所蔵されにくく、中立書籍は比較的所蔵されやすい傾向があることが分かった。また、自治体内でのポジティブ書籍とネガティブ書籍の所蔵タイトル比を示す「偏り尺度」を自治体ごとに測定し、中立的な所蔵傾向を示す自治体が多いこと、都道府県は市町村に比べてポジティブに偏る傾向が大きいことを明らかにした。

(指導教員 池内 淳)